

2023年度 環境経営レポート

～第7号～

対象期間 2023年6月～2024年5月



株式会社テスミック

(2024年7月30日 作成)

目次

I	組織の概要	2
II	環境方針	3
III	実施体制	4,5
IV	環境経営目標	6,7
V	環境経営計画	8
VI	環境経営目標の実績とその評価	9
	次年度の環境経営目標	10
VII	環境経営計画に基づき実施した取組内容・取組結果とその評価	11,12,13
	次年度の環境経営計画	
	当社の取組み	14,15
VIII	環境関連法案規等の遵守状況の確認及び評価の	16,17
	結果並びに違反、訴訟等の有無	
IX	代表者による全体の評価と見直し・指示	18

I 組織の概要

1 事業者名及び代表者名

株式会社テスミック
代表取締役社長 竹平勝一

2 所在地

名称	所在地
本社	愛知県名古屋市守山区天子田4丁目601番地
名古屋工場	愛知県名古屋市守山区天子田4丁目701番地
静岡工場	静岡県静岡市葵区辰起町8番5号

3 環境管理責任者、事務担当者の氏名及び連絡先

環境管理責任者 小室裕一 TEL 054-275-0111
MAIL hk.komuro@tesmik.co.jp
事務担当者 長谷川剛史 MAIL t.hasegawa@tesmik.co.jp

4 事業の概要

プリント基板実装
ファンクションテスター・オーダーメイド検査システム
各種計測器の開発・設計・製作・販売
各種治工具類の設計・製作・販売

5 事業規模

項目	内容
売上高	全社 33億9650万 (静岡事業本部 29億2104万) 2023年6月~2024年5月口
従業員数	全社 154名 (静岡事業本部 129名(うちパート92名))

※環境レポート中の生産高は“原単位比”に大きく影響する“実装部の生産高”を用いている為、
“自己チェック表中の事業規模の数字”とは異なる。

6 事業年度 毎年 6月1日 ~ 翌年 5月31日

7 レポートの対象期間及び発行日

環境経営レポートの対象期間(2023年6月1日~2024年5月31日)
環境経営レポートの発行日(2024年7月30日)

8 対象範囲(認証・登録範囲)

活動：プリント基板の実装業務、電気計測器の開発・設計・製造・販売、工具類の設計・製作・販売
対象組織：静岡工場
※サイト認証

Ⅱ 環境経営方針

基本理念

当社は プリント基板の実装業務、及びそれに付随する検査装置の開発・設計を
主な事業内容としております。

それら事業活動に対し、環境負荷を把握・評価、特定して「地球環境保全」に
従業員全員参加で取り組み、継続的に人の健康維持と環境保全に努めます。

基本方針

- 1 企業活動において、環境負荷の自己チェックを行い、継続的な改善活動によって、
環境負荷を削減します。
- 2 環境関連法規制、条例、及びその他の要求事項を遵守します。
- 3 不適合品流出“0件”を目標とし、顧客満足度向上と環境コミュニケーションを推進します。
- 4 環境への負荷を可能な限り削減し、それが環境保全、コスト削減につながる活動を
目指します。
 - ・ 省エネルギーに努め、二酸化炭素排出量を削減します。
 - ・ 製造工程を見直し、廃棄物の削減に努めます。
 - ・ 節水に努めます。
 - ・ 備品・消耗品はグリーン購入を推進します。
 - ・ 社内で使用する化学物質の削減に努めます。
- 5 環境保全に関する活動に積極的に参加し、また会社外においてもエコアクションの精神を
浸透するよう努めます。
- 6 全従業員へ、環境方針の周知徹底を図ります。

制定日 2018年4月1日

改訂日 2019年1月7日

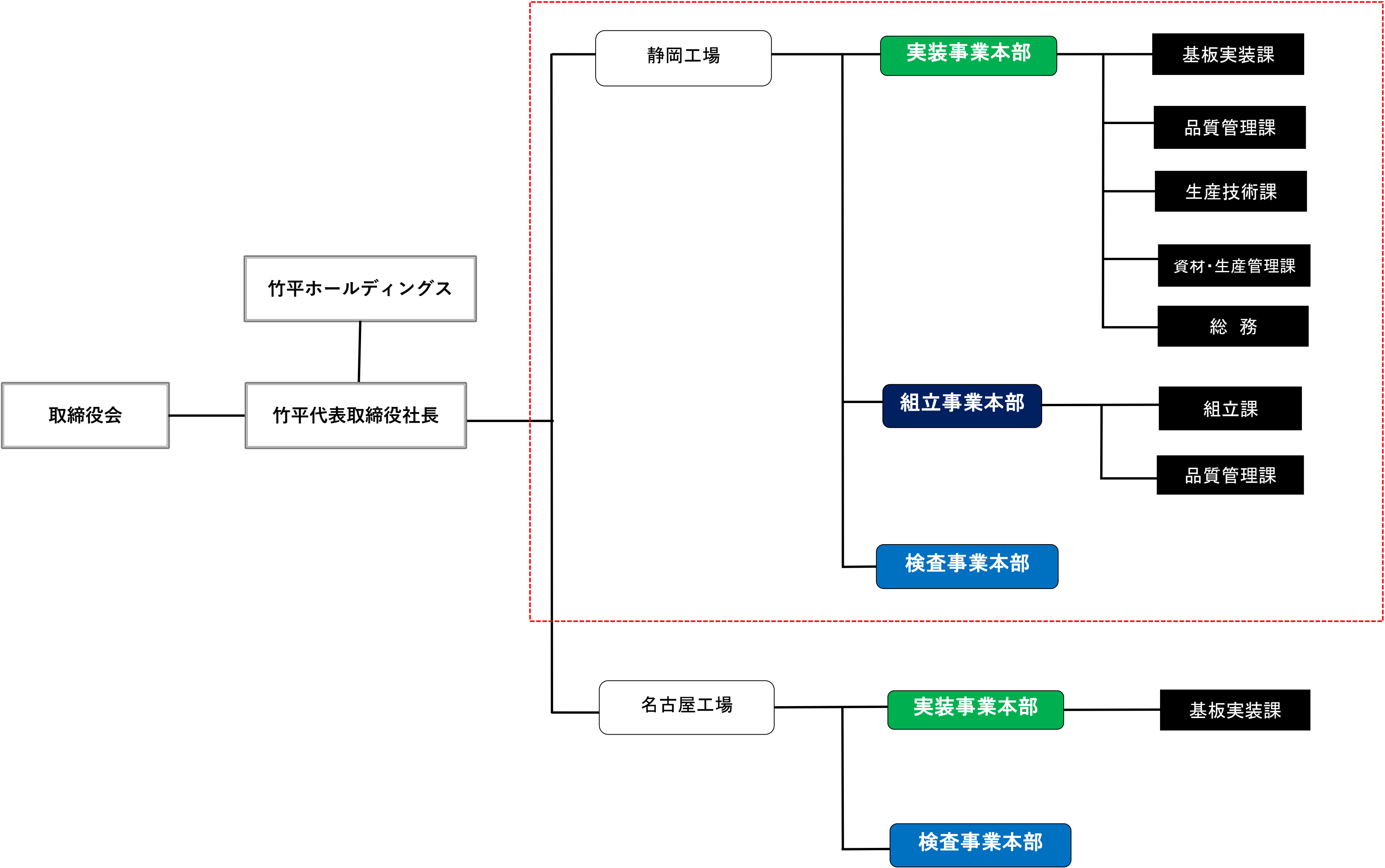
株式会社テスミック

代表取締役社長

竹平 勝一

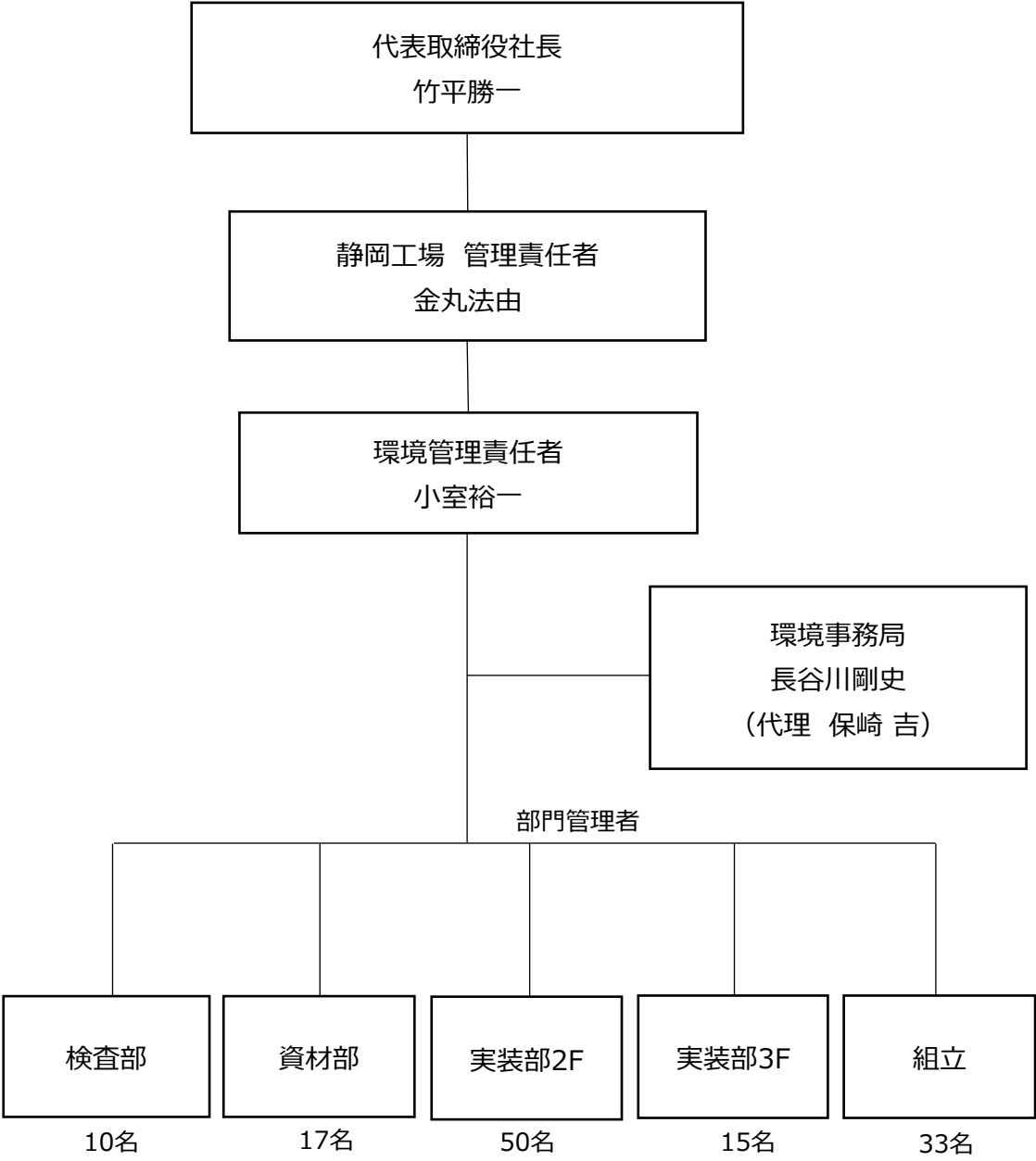
III 実施体制-1

：サイト認証の範囲



承認	審査	作成
テスミック 2024/5/30 竹平	テスミック 2024/5/30 小室	テスミック 2024/5/30 長谷川

Ⅲ 実施体制-2



承認	審査	作成
テスミック 2024/5/30 竹平	テスミック 2024/5/30 小室	テスミック 2024/5/30 長谷川

役割・責任・権限	
代表取締役社長	・環境経営に関する統括責任。 ・必要な人材・設備・資金・時間等を準備。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知。 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・課題とチャンスを明確にする。
静岡工場 管理責任者	代表取締役社長の役割・責任・権限の代行。
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境関連法規制管理台帳を承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告。 ・環境活動レポートの確認。
環境事務局	環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成。 ・環境活動の実績集計。 ・環境関連法規制管理台帳の作成、定期的な確認。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・事務局部門の環境活動レポートの作成、公開。
部門管理者	・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施。 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理。 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成。 ・緊急事態への対応のためのテスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

承認	審査	作成
		

IV 環境経営目標

1. 2023年度の環境目標

※目標の設定方法：2022年8月に第2工場を立ち上げたため、基準期間(2022.6～2023.5) の原単位を基準として算出した。

※燃料については、基準年度に対する（1-削減率）を乗じた数値を目標値とした。

※ガソリン（営業活動以外）は、2023年度より使用なしのため目標値もなしとした。

※不適合品流出件数については、基準年度を100%とし20%削減を今期の目標にした。

※生産高（K円）は、影響の大きい「実装事業部」と「組立事業部」の加工費を合算した数値である。

項目			単位	基準期間	運用期間		
				(2022.6～2023.5)	(2023.6～2024.5)		
				実績	目標削減率	目標値	
			加工費高(K円)	1,075,681	-	1,086,438	
二酸化炭素排出量			kg-CO ₂	476,103		462,120	
			原単位(kg-CO ₂ /K円)	0.443	-3%	0.429	
内訳	電力		kWh	947,179	-	927,951	
			原単位(kWh/K円)	0.88	-3%	0.85	
	ガソリン(営業活動) ハイエース×1台、ノア×2台		L	1,738	-3%	1,686	
	燃費	ハイエース	km/L	9.2	2%	9.4	
		ノア 5147		11.3		11.5	
		ノア 9378		11.3		11.5	
	ガソリン(営業活動以外)		L	1,884	-	-	
	軽油(営業活動 納品) 4tトラック、2tトラック 各 1 台		L	4,326	-2%	4,239	
	燃費	納品トラック 4t	km/L	4.7	2%	4.8	
		納品トラック 2t		4.7		4.8	
	不適合品流出件数の削減		件数(基準年を100%とする)	100%	-20%	80%	
	廃棄物排出量			kg	48,530	-	47,545
原単位(kg/K円)				0.0451	-3%	0.0438	
産業廃棄物				kg	88,949	-	87,143
				原単位(kg/K円)	0.0827	-3%	0.0802
水使用量			m ³	538	-	527	
			原単位 (m ³ /K円×1,000)	0.50	-3%	0.4851	
化学物質使用量			kg	5,711	-	5,480	
			原単位 (kg/K円×100)	0.53	-5%	0.5044	
製品への環境配慮			客先への提案(件数)	2	-	2	

※「購入電力」の二酸化炭素排出係数は中部電力(2015年度) 調整後排出係数の「0.482kg-CO₂/kWh」を使用した。

※「ガソリン使用量」について、これは過去実績から生産高に依存しない為、絶対値管理とする。

※「燃費」について、2020年度以降は営業車の燃費向上も目標値として設定する。昨年実績に対し 2 %の向上を目指す。

※「不適合品流出件数の削減」について、2022年度の流出件数に対し、「20%」の削減を目標とする。

※「製品への環境配慮」については2022年度の実績として客先への提案が2件であった。2023年度も2件を目標とする。

2. 短期・中期の環境目標

※目標の設定方法：2022年8月に第2工場を立ち上げたため、基準期間(2022.6～2023.5) の原単位を基準として算出した。
※燃料については、基準年度に対する（1-削減率）を乗じた数値を目標値とした。
※ガソリン（営業活動以外）は、2023年度より使用なしのため目標値もなしとした。
※不適合品流出件数については、基準年度を100%とし20%削減を今期の目標にした。以降の削減率は以下の通り。

項目			単位	基準年度（期間）	削減率等			
				(2022.6～2023.5)	2023年度	2024年度	2025年度	
			加工費高(K円)	1,075,681	1,086,438	1,097,302	1,108,275	
二酸化炭素排出量			kg-CO ₂	476,103	462,120	461,784	461,399	
			原単位 (kg-CO ₂ /K円)	0.443	0.425	0.421	0.416	
内訳	電力		kWh	947,179	927,951	927,569	927,085	
			原単位 (kWh/K円)		-3%	-4%	-5%	
			0.88	0.85	0.85	0.84		
	ガソリン(営業活動) ハイエース×1台、ノア×2台				-3%	-4%	-5%	
			L	1,738	1,686	1,668	1,651	
	燃費				2%	3%	4%	
		ハイエース	km/L	9.2	9.4	9.5	9.6	
		ノア 5147		11.3	11.5	11.6	11.8	
		ノア 9378		11.3	11.5	11.6	11.8	
	ガソリン(営業活動以外)				－	－	－	
			L	1,884	－	－	－	
	軽油(営業活動 納品) 4tトラック、2tトラック 各 1 台				-2%	-3%	-4%	
			L	4,326	4,239	4,196	4,152	
	燃費		km/L		2%	3%	4%	
		納品トラック 4t		4.7	4.8	4.8	4.9	
		納品トラック 2t		4.7	4.8	4.8	4.9	
不適合品流出件数の削減			件数	100%	-20%	-20%	-20%	
廃棄物排出量			一般廃棄物	kg	48,530	47,545	47,525	47,500
				原単位 (kg/K円)		-3%	-4%	-5%
					0.0451	0.0438	0.0433	0.0429
			産業廃棄物	kg	88,949	87,143	87,107	87,062
				原単位 (kg/K円)		-3%	-4%	-5%
		0.0827	0.0802	0.0794	0.0786			
水使用量			m ³	538	527	538	527	
			原単位 (m ³ /K円×1,000)		-3%	-4%	-5%	
		0.50	0.49	0.49	0.48			
化学物質資料量			kg	5,711	5,480	5,476	5,472	
			原単位 (kg/K円×100)		-5%	-6%	-7%	
		0.530919	0.504374	0.499064	0.493755			
製品への環境配慮			客先への提案(件数)	1件	2件	2件	2件	

※「購入電力」の二酸化炭素排出係数は中部電力(2015年度) 調整後排出係数の「0.482kg-CO2/kWh」を使用した。
※「ガソリン使用量」について、これは過去実績から生産高に依存しない為、絶対値管理とする。
※「燃費」について、2020年度以降は営業車の燃費向上も目標値として設定する。
※「不適合品流出件数の削減」について、2020年度の流出件数に対し、「20%」の削減を目標とする。
※「製品への環境配慮」については2022年度の実績として客先への提案が2件であった。2023年度も2件を目標とする。

V 環境経営計画

(2023年6月～2024年5月)

環境活動項目			責任者	スケジュール					
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月		
二酸化炭素の削減	空調	「空調設定温度」ならびに「空調起動順序」の順守を徹底する		保崎 増川 長谷川				→	
		空調機フィルターメンテナンスの期間を決めて実行する(1回/3ヶ月)				11月実施	2月実施	5月実施	
		2F現場の空調環境整備工事(エアコン メンテナンス)			7月実施				
		2F現場の空調環境整備工事(吸気口追加工事)			8月実施				
	設備等	未使用時の照明消灯		保崎 増川 川崎 長谷川				→	
		生産設備のピークカット(リフロー、半田槽の起動順序の順守)				週初めにプログラムタイマー確認		→	
		未使用設備の電源OFF						→	
		老朽化した設備の更新による省電力化						4、5月実施	
	工場	生産時間短縮に向けた取り組みの実施 画像検査装置の導入				9月実施			
		不適合品流出件数の削減						→	
	運転管理	エコドライブ10のすすめ	相乗り運転の推進		金丸 長嶋 竹内				→
			アイドリングストップ						→
			急加速・急停車の防止						→
			エアコンの控え目使用						→
			燃費向上を目指した自動車専用道路走行時の速度意識						→
									→
廃棄物の削減		飲食によるごみの持ち帰り		田代				→	
		コピー用紙削減 両面印刷への積極的取組						→	
水使用量の削減		節水への注意喚起、節水グッズ導入の検討		金丸				→	
化学物質使用量の削減		未使用設備から取外し・密封		久保田				→	
		未使用時の設備停止						→	
環境配慮製品の開発 販売促進		製品設計時、リサイクル可能な仕様を検討する		鈴木				→	
		環境に配慮された部品部材を選定する						→	

VI 環境経営目標の実績とその評価

次年度の環境経営目標

運用期間(2023年6月～2024年5月) の環境目標の実績

基準期間(2022.6～2023.5) をベースに、運用期間(2023年6月～2024年5月) の実績・評価を以下に示す。

項目			単位	基準期間	運用期間						
				(2022.6～2023.5)	(2023.6～2024.5)						
				実績	目標削減率	目標値	実績削減率	実績値	評価		
			加工費高(K円)	1,075,681	-	1,086,438	-	912,785	-		
二酸化炭素排出量			kg-CO ₂	476,103	-	462,120	-	464,494	×		
			原単位 (kg-CO2/K円)	0.443	-3%	0.429	15%	0.509			
内訳	電力		kWh	947,179	-	927,951	-	918,877	×		
			原単位 (kWh/K円)	0.88	-3%	0.85	14%	1.01			
	ガソリン(営業活動) ハイエース×1台、ノア×2台		L	1,738	-3%	1,686	39%	2,335.8	×		
	燃費	ハイエース	km/L	9.2	2%	9.4	13.0%	10.6	○		
		ノア 5147		11.3		11.5	-15.8%	9.7	×		
		ノア 9378		11.3		11.5	20.6%	13.9	○		
	軽油(営業活動 納品) 4tトラック、2tトラック 各 1 台		L	4,325.5	-2%	4,239.0	48%	6,270.0	×		
	燃費	納品トラック 4t	km/L	4.7	2%	4.8	3%	4.9	×		
		納品トラック 2t		4.7		4.8	11%	5.3			
	不適合品流出件数の削減		件数	100%	-20%	80%	-25%	75%	○		
廃棄物排出量			kg	48,530	-	47,545	-	35,150	○		
			原単位 (kg/K円)	0.0451	-3%	0.0438	-15%	0.0385			
			産業廃棄物		kg	88,949	-	87,143	-	72,574	○
					原単位 (kg/K円)	0.0827	-3%	0.0802	-4%	0.0795	
水使用量			m ³	538	-	527	-	509.0	×		
			原単位 (m ³ /K円×1000)	0.50	-3%	0.49	11%	0.56			
化学物質使用量			kg	5,711	-	5,480	-	4,119.0	○		
			原単位 (kg/K円×100)	0.53	-5%	0.50	-15%	0.45			
製品への環境配慮			客先への提案(件数)	2	-	2	-	2件	○		

※削減比率は基準期間実績値に対する削減量の割合である。

※生産高 (K円) は、影響の大きい「実装事業部」と「組立事業部」の加工費を合算した数値である。

VI 環境経営目標の実績とその評価

次年度の環境経営目標

評価

二酸化炭素排出量	目標に対し二酸化炭素排出量を抑えることはできなかった。原単位での比較でも増加してしまった。
電力	古い設備の更新もあり、実装事業部では電気使用量が抑えられた。 生産数が落ちたこともあるが、使用量が日々の取組みの効果も出ていると推測する。 組立事業本部での使用量は基準期間より増えている。基準期間と比べ2ヶ月分稼働月が多いのも要因と考える。
ガソリン（レギュラー）	22年度は営業活動でメインが1台だったが、2台とも営業活動での使用が増えたこと、内1台は本社への移動もあり全体的な使用量は増加。 ハイエースとノア9378 で高速自動車道の利用もあった分、燃費が抑えられたことは評価したい。 ノア5147は、三菱電機への営業活動で一般道を走る機会がメインだったため燃費で目標に届かず。 引き続きエコドライブを意識し、燃費向上に努める
軽油	納品トラックが、2023年3月より2t車が1台追加となり、使用量は増加となる。 2024年度は、2023年度を基準として新たな目標値設定とする。
不適合流出件数の削減	流出件数は目標値を達成したことは評価したい。 今後も品質改善活動に取り組みたい。
一般廃棄物	生産数が落ちたことにより排出量も減少したと考える。 引き続き削減の取組みは継続していきたい。
産業廃棄物	産業廃棄物も同様に排出量は減少。生産数が落ちたことが要因と考える。
水使用量	従業員数が増加したが、使用量は減少。ただし原単位での比較では未達成。 今後は、節水への注意喚起と節水グッズなどの導入により抑えられるように努めたい。
化学物質使用量	対象の生産設備を更新したこと、使用する製品の生産量が減ったことで使用量の減少につながったと推測する。
製品への環境配慮	引き続き提案を継続して行う。

※今年度の結果から次年度の目標を新たに設定

Ⅶ 環境経営計画に基づき実施した取組内容・取組結果とその評価

次年度の環境経営計画

(取組期間：2023年6月～2024年 5月)

二 酸 化 炭 素 の 削 減	空 調	環境活動項目	責任者	評価	コメント	今後の 取組み内容
		「空調設定温度」ならびに「空調起動順序」の 順守を徹底する	保崎 増川 長谷川	○	取組みは問題なく実施できている。 換気環境改善が実施できた。	継続 他も検討
		空調機フィルターメンテナンスの期間を決めて実行する (1回/3ヶ月)		○		
		~~ 各担当コメント ~~				
		保崎 規程のとおり、フィルターのメンテナンスは実施できました。 これによりエアコンの効率が上がり電気使用量の抑制にもつながれると思います。				
	設定温度・起動順序の順守、フィルターの清掃も1回/3ヶ月実施できた。 増川					
	2 Fの空調改善として、換気環境改善工事を実施した。 以前より空気の循環ができるようになった。 長谷川					
	設 備 等	環境活動項目	責任者	評価	コメント	今後の 取組み内容
		未使用時の照明消灯	保崎 増川 川崎 長谷川	△	今年度、設備投資をし、老朽化設備を 一部 更新しました。 来年度も予定があるため更なる削減に 繋げたい。	継続
		生産設備のピークカット (リフロー、半田槽の起動順序の順守)		○		
		未使用設備の電源OFF		○		
		老朽化した設備の更新による省電力化		○		
		~~ 各担当コメント ~~				
		設備タイマーはしっかり確認し、ピークカットは実施できました。新人も入社しましたので、設備の取扱いやピークカット等について しっかり教えていきたいです。 1ライン分、リフロー炉の設備更新をしました。メンテナンスに使用する化学物質使用量が抑えられた。 保崎 設備タイマーはしっかりと遵守できた。 一部、未使用時の照明消灯が出来ていない箇所が見受けられたので、今後改善していきたい。 2F 後工程にてフラクサー、はんだ槽の設備更新により、メンテナンスに使用する電力の使用量、化学物質使用量が抑えられた。 増川、川崎、長谷川				

※評価判定 ○(良くてきた) △(まあまあできた) ×(できなかった) - (実施が見送られた)

二酸化炭素の削減

工場	環境活動項目		責任者	評価	コメント	今後の 取組み内容
	生産時間短縮に向けた取り組みの実施		保崎 増川 川崎 長谷川	○	不適合品流出件数の削減についてはまだまだ、十分な対策が取れていない。	継続
	不適合品流出件数の削減			△		
	~~ 各担当コメント ~~					
	生産時間短縮の為にプログラムの作成は継続して行った。 生産ライン外で段取り準備をし、段取り時間を短縮できるよう、設備の備品の購入を検討したい。 保崎 不適合品流出について、画像検査装置の導入により、不具合の早期発見ができる環境改善ができた。 直接雇用の従業員が増えたため、作業教育に力を入れたいと思います。 増川、川崎					

運転管理	環境活動項目		責任者	評価	コメント	今後の 取組み内容
	エコドライブの取り組み	アイドリングストップ	金丸 長嶋 竹内	○	エコ運転を継続する。	継続
		急加速・急停車の防止		○		
		エアコンの控え目使用		○		
		燃費向上を目指した自動車専用道路走行時の速度意識		○		
~~ 各担当コメント ~~						
2tトラックの導入により使用量は増加しているが、燃費は抑えられているので、エコ運転を継続していきたい。 今後もガソリン消費量の削減と燃費効率向上を目指したい。 長嶋 一般道を走る機会が多いため燃費で目標に届かなかった。 取組みは継続して行いエコドライブに努める。 金丸						

廃棄物の削減

	環境活動項目		責任者	評価	コメント	今後の 取組み内容
	飲食によるごみの持ち帰り		田代	○	飲食によるごみの持ち帰りについて社内ルールが徹底された。	継続
	コピー用紙削減 両面印刷への積極的取組			△		継続
	~~ 各担当コメント ~~					
従業員が増えたが、入社時の説明により、ほぼごみの持ち帰りは徹底できたと思われる。 増員した分、コピー用紙は若干増加傾向にあるため、削減への取り組みは継続していく。 田代						

※評価判定 ○(良くてきた) △(まあまあできた) ×(できなかった) - (実施が見送られた)

水 使 用 量 の 削 減	環境活動項目	責任者	評価	コメント	今後の 取組み内容
	節水グッズ導入の検討	金丸	－	－	継続
	～～ 各担当コメント ～～ 従業員は増加に伴い使用量も増加した。節水の注意喚起の実施と節水グッズの検討、取り組みを進めたい。 次年度の課題と致します。				
化 学 物 質 使 用 量 の 削 減	環境活動項目	責任者	評価	コメント	今後の 取組み内容
	未使用設備から取外し・密封	久保田	○	設備の更新により使用量が抑えられた	継続
	未使用時の設備停止		○		
	～～ 各担当コメント ～～ 老朽化設備の更新もあり、使用量は抑えられた。 設備の使用が終了した際はすぐに電源を落とすことを現場へ積極的に声掛けすることを心がけました。				
環 境 配 慮 製 品 の 開 発 販 売 促 進	環境活動項目	責任者	評価	コメント	今後の 取組み内容
	製品設計時、リサイクル可能な仕様を検討する	鈴木	×	リサイクル可能な部材選定までは出来なかった。 CE対応の部材選定、提案に取組んだ	継続
	環境に配慮された部品部材を選定する		△		
	～～ 各担当コメント ～～ 今年度は十分にできませんでした。 引き続き次年度の課題とします。				

※評価判定 ○(良くてきた) △(まあまあできた) ×(できなかった) －(実施が見送られた)

当社の取組み(1)

実施日 : 4月20日 取組内容 : 老朽化設備の更新 ラジアル部品挿入機

場所 : 3階 部品自挿工程

目的 : 消費電力の削減に向けた取り組み

Before



After



老朽化設備の更新により消費電力の削減につながる

当社の取組み(2)

実施日 : 5月24日 取組内容 : 老朽化設備の更新 スプレーフラクサー、はんだ槽 Aライン/Dライン

場所 : 2階 フロー工程

目的 : 化学物質使用量削減に向けた取り組み

Before



After



老朽化設備の更新により、メンテナンスの回数、ドロスの発生が減り、
化学物質使用量削減に繋がる

VIII 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1.環境関連法規等の遵守状況

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認し、
問題ないことを確認しました。

評価日 2024年5月30日
評価者 環境管理責任者 小室裕一

法律・条令			遵守事項又は規制基準	当社の適用及び対応	遵守結果
義務	法令	騒音規制法	規制基準の遵守	騒音の測定	○
			特定施設の届出	空気圧縮機 15kW 3台	○
			特定施設の数等の変更の届出	届出内容の変更無し	○
		振動規制法	規制基準の遵守	騒音の測定	○
			特定施設の届出	空気圧縮機 15kW 3台	○
			特定施設の数等の変更の届出	届出内容の変更無し	○
		廃棄物処理法	一般廃棄物の収集業者への委託処理	市条例の基準厳守	○
			産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	契約書・許可証の確認(1回/年)	○
			保管基準の遵守	60cm×60cm以上の表示	○
				廃棄物の種類の明示	○
				管理者氏名・連絡先の表示	○
			マニフェストの管理	A、B2、D、E票の保管（5年間）	○
				管理表、契約書等 終了後5年間保存	○
				B2・D票90日、E票は180日以内に 送付されない場合は 30日以内の知事への報告	○
			産業廃棄物管理票交付等 状況報告書の提出	4月1日～翌3月末日までの排出量を 6月末日までに提出 4月届け出済	○
		消防法	消火、通報、避難訓練の実施	実施	○
			危険物保管の指定数量以上の許可申請	危険物保管の指定数量1/5以上の届出	○
				貯蔵庫の届出	○
			消防用設備等の点検及び報告	消火設備の定期点検	○
		フロン排出抑制法	フロン類の適切な処理	エアコン・エアドライヤーの廃棄/修理時等のフロン類の 充填・回収はフロン類充填回収業者へ委託	○
				充填証明書・回収証明書保管	
			対象機器の定期点検 (エアコン・エアドライヤー)	簡易点検の実施(1回/3ヶ月) 点検記録は廃棄後3年間保管	○
		労働安全衛生法	安全管理者の選任	事業所の規模：50人以上 落合昇	○
			衛生管理者の選任	事業所の規模：50人以上 長谷川剛史	○
			産業医の選任	事業所の規模：50人以上 小沢福示郎	○
			有機溶剤作業主任者の選任	保崎吉	○
			化学物質有害性の周知	SDSを工場内に掲示	○
			特殊健康診断	有機溶剤業務に関わる従業員 (2回/年)	○
			工場内の作業環境測定	有機溶剤を扱うフロアの濃度の測定 (2回/年)	○
		家電リサイクル法	特定家庭用機器の排出抑制及び廃棄時の 収集運搬ルールの順守	TV、エアコン、冷蔵庫、洗濯機廃棄時のリサイクル費 用支払い	○
		自動車リサイクル法	使用済自動車の業者への引き渡し	廃車時のリサイクル料金支払い	該当無し
		PRTR法	第一種指定化学物質 1t以上取扱いで届出義務	指定化学物質の取扱い計量	該当無し
		下水道法	特定施設の届出	排出基準の遵守	該当無し

評価日 2024年5月30日
評価者 環境管理責任者 小室裕一

法律・条令			遵守事項又は規制基準	当社の適用及び対応	遵守結果
		REACH規則	適合部材の調達	客先システムにより情報開示	○
		改正RoHS指令	適合部材の調達	客先システムにより情報開示	○
	静岡市 条例	静岡市産業廃棄物の適正な処理に関する条例	委託業者の運搬または処分が行われる施設の 実地確認とその記録の保存	委託契約前：あらかじめ実地確認	-
				委託契約後：実地確認 1回/1年	○
			産業廃棄物責任者の設置	責任者：久保田涼介	○
	静岡県 条例	静岡県生活環境の 保全等に関する条例	排出の抑制に関する施策の推進 指定化学物質の適正管理等	指定化学物質の取扱い計量	該当無し
		静岡県生活環境の 保全等に関する条例	自動車等の使用に伴う 環境負荷への低減	環境への負荷の少ない自動車の購入 自動車等の効率的な使用 駐車時のエンジン停止	○
		静岡県生活環境の 保全等に関する条例	騒音特定施設の届出	空気圧縮機 15kW 2台	○
			騒音特定施設変更の届出		該当無し
			地域別騒音基準の順守		○
		静岡県生活環境の 保全等に関する条例	振動特定施設の届出	空気圧縮機 15kW 2台	○
			振動特定施設変更の届出		該当無し
			地域別騒音基準の順守		○
責 務 ・ 努 力	法令	資源有効利用促進法	再生資源及び再生部品を利用	パソコンのリサイクル	○

2.違反、訴訟の有無
当社に対し関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟はありませんでした。

IX 代表者による全体の評価と見直し・指示

作成 2024年6月28日

1 ・ 見 直 し 関 連 情 報	項目		確認：(必要に応じて評価・コメント記載)	
	1	エコアクション21文書	☒	記録・文書として作成。
	2	環境経営目標及び目標達成状況	☒	記録に記載。
	3	環境経営計画及び取り組み実施状況	☒	継続して取り組む。
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	☒	記録に記載。
	5	外部コミュニケーション・対応記録	☒	特に問題無し。
	6	問題点の是正・予防措置の実施状況	☒	特に問題無し。
	7	取引先、業界、関係行政機関、その他の外部同行	☒	
	8	その他()	☒	

2 ・ 代 表 者 に よ る 全 体 評 価 ・ 見 直 し 指 示	2023年6月～2024年5月の取組について、環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画、実施体制を含めた実施状況について評価を行った。		
	昨年度より生産数（受注数）が減少の影響の中、積極的な改善活動の姿勢、エコアクション21への取り組む姿勢がみられたのは評価したい。		
	不適合品流出件数の削減、社内不良発生については取り組みの効果が不十分であると感じる。		
	本年度は、はんだ槽やラジアル機など設備更新をした。次年度も更新を検討しており、更なる品質改善に繋がれるよう取り組んで欲しい。		
	エコアクション 2 1 の取組みについて、各自の役割、責任、権限を全従業員に周知し、今後も活動を進めていきたい。		
	2024年 6 月 2 8 日		
	株式会社テスミック		
	代表取締役社長 竹平 勝一		
	見直し項目		変更の 必要性
	1	環境経営方針	有・ ☒ 無
	2	環境経営目標	有・ ☒ 無
	3	環境経営計画	☒ 有・無
	4	環境に関する組織(実施体制含め)	有・ ☒ 無
	5	その他のシステム要素	有・ ☒ 無
	6	その他(外部への対応)	有・ ☒ 無
			「有」の場合の指示事項等
			新たな取組みの検討を指示